

令和7年度学校保健講習会に参加して



理事 當間 隆也

「学校健康診断に関する諸課題について」をテーマに、令和7年4月13日、日本医師会館で令和7年度学校保健講習会が開かれました。主な演題は以下の4つでした。

- (1) 学校保健施策の動向
- (2) 機器による側弯症健診
- (3) 眼科・耳鼻咽喉科学校健診の現状
- (4) 心の健康

(1) 学校保健施策の動向について

文部科学省の学校保健対策専門官からのお話です。

- ①視力低下（近視）の児童生徒が増えていること、
 - ②「脊柱側弯症健診に関する調査研究事業」の実施について、
 - ③健康診断の実施にあたって留意すべき事項について、が主な内容でした。
- ①近視については、
- ・紙でもタブレットでも長時間の作業は視力に影響すること、
 - ・できるだけ外で遊ぶことと、
 - ・長い時間、近くを見続けられないこと（近い所を見る作業は短くすること）
- が対策として重要であることが報告されました。

質疑応答では、休み時間が短く外で遊べない、中学受験もあるので外で遊ぶ時間がない等、現実には厳しいとの意見がありました。

- ②脊柱側弯症健診については、全国の教育委員会を対象として、検査機器を用いた検査の導入状況等のアンケート調査結果の報告がありました。以下はその主な内容です。

- ・966教育委員会から回答があり、検査機器を用いた検査を導入しているのは139教育委員会。
- ・愛媛県、秋田県、千葉県では60%以上の教育委員会が導入している。
- ・未導入教育委員会における今後の導入予定がない理由は、「視触診における検診で満足いく結果が得られている」が一番である。
- ・「そもそも何のことか全くわからない」という回答も見られる。
- ・文部科学省としては、学校健診における、より正確な脊柱側弯症健診の導入は喫緊の課題であり、教育行政関係者や教職員等に対して、広く理解を進めることが必要と考えている。
- ・各地域で検査機器の導入を既に決めた際、教育委員会の担当者や学校の教員などの参考となるよう、「検査機器を用いた脊柱の検査の準備の手引き」を作成した。

発表後の質疑応答では、健診精度を上げたいので医師が頑張るが学校は理解してくれない、機器の導入は各教育委員会が主導するのか、どの機器を導入したら良いのか、機器によって異常とする基準が違うので統一基準が必要ではないか、心電図検査と同様に特定の学年だけ行えば良いのか等、種々の意見がありました。沖縄県としても、考え方を検討、共有しておく必要があります。

- ③健康診断の実施にあたって留意すべき事項については、学校医に説明するためのリーフレット

トを作成したこととその内容が報告されました。中でも、児童生徒のプライバシーや心情に配慮した健康診断を実施することが大きな課題となっていますが、着衣では正確な検査や診察が困難になる懸念も示されており、正解のない難しい問題だと改めて感じました。実は質疑応答の際、講話した専門官は帰宅して不在でした。文部科学省は真剣にこの問題に向き合っているのかとの声も会場からあり、私自身も残念に感じました。

(2) 機器による側弯症健診について

機器による側弯症検診のメリット・デメリットについての講話でした。医師はより正確な検診をと考えているが教育委員会は現在の視触診での検診に満足しており、医師と教育委員会の評価が異なること、現在使われている機器の紹介等がありました。機器検診の課題は以下の通りです。

- ・方法論や機器の仕様が完全に標準化されていない。
- ・側弯症を確実に判定できるわけではない。
- ・脱衣が必要である（着衣でも検診できる機器が開発されている）。
- ・機器が大型であり、高額である。

着衣でも検診できる機器について近々論文が出るようで、実用化されると機器検診が一気に進むかもしれないと感じました。

(3) 眼科・耳鼻咽喉科学校健診の現状について

シンポジウム（北から南から）が行われ、北海道と沖縄から演題発表がありました。

北海道からは、眼科・耳鼻咽喉科学校健診の現状の報告でした。

- ・北海道は広く、市町村数が多いため健診が広がりにくい。
- ・過疎化、少子化で郡部に児童生徒が少ない、いない。
- ・医師の偏在により、眼科医・耳鼻咽喉科医不在の自治体が多い。
- ・近隣でも移動距離が長く健診を引き受けられない。

- ・遠方からの健診になるため、自治体の宿泊費や交通費の負担が大きい。
- ・眼科医・耳鼻咽喉科医による健診が行われていない自治体の偏在が見られる。
- ・なかには、自治体に眼科医・耳鼻咽喉科医がいても健診要請がない。
- ・健診に積極的な眼科医・耳鼻咽喉科医は少なく、責任感の強い医師が頑張っている、等が述べられました。

眼科・耳鼻咽喉科医が不在であるが、健診に積極的な自治体では、「専門医健診推進事業」を利用した専門医による健診が行われているとのことです。北海道学校保健会を窓口として、自治体が主体となり、北海道教育委員会、北海道医師会、北海道眼科医会、北海道耳鼻咽喉科医会の協力で行われている事業で、沖縄県にとっても参考になる取り組みで、興味深く拝聴いたしました。

沖縄から、真栄城耳鼻咽喉科真栄城徳秀先生の「沖縄県における耳鼻咽喉科学校健診の現状・大きな問題点・今後」の発表がありました。要旨は以下の通りです。

- ・沖縄県では、耳鼻咽喉科学校医が2%の小中学校にしか配置されていない。
- ・耳鼻咽喉科医による学校健診実施率が27%と低い。
- ・その要因として、教育委員会の認識不足（沖縄県以外の都道府県では内科・耳鼻咽喉科・眼科3校医制となっていることを把握していないなど）や、必ずしもモチベーションが高い耳鼻咽喉科医ばかりではないこと等が考えられる。

- ・取り組むべき課題として、耳鼻咽喉科医による学校健診実施率・学校医配置率のアップ、教育委員会への啓発活動、耳鼻咽喉科医の意識改革等がある。

真栄城先生の熱い思いに、皆さん頷きながら聞いているのが印象的でした。

ディスカッションでは、多くの地域でも同じ状況があり地域差があること、やる気のある眼科・耳鼻咽喉科医が増えてほしいこと等、これも熱く語る眼科・耳鼻咽喉科の先生方が印象的でした。

(4) 心の健康について

2つの講演がありました。1つめは体と心の健康、2つめは発達障害と心の健康に関するお話でした。

体とこころの学校健診では、体のつらさはこころのつらさと相関しているもので、眠れない、朝起きられない、頭痛や腹痛、倦怠感等の身体の不調が続く場合は、学校医やかかりつけ医が予防的早期医療介入をした方が良い、小児科医がまず関わってほしいとの内容でした。医師はあくまでも子どもの味方。積極的に治療をするのではなく、隣にいて寄り添い、話を聞き、子どもの心の変化を待つだけで良い、との考え方に賛同できました。

発達障害と心の健康では、学校生活につまずきやすい子どもの健康をどう守るかというお話でした。発達障害のある子どもほど個別対応が必要と医療側は考えますが、教員は集団をどう指導するかが大事な仕事であり、教員には集団をマネジメントする力が要求されるため、個別対応する先生はダメな先生と評価される可能性がある、という教育現場での考え方は衝撃的でした。

以上、多岐にわたる学校健康診断に関する諸課題を勉強できる大変有意義な講習会でした。

令和7年度学校保健講習会 プログラム					
日時		令和7年4月13日(日) 午前10時～午後4時			
場所		日本医師会館大講堂(東京都文京区本駒込2-28-16)			
主催		日本医師会 / 後援 日本学校保健会			
テーマ「学校健康診断に関する諸課題について」					
開始	終了	時間			
10:00	10:10	0:10	開会		
			渡辺 弘司 (日本医師会 常任理事)		
			主催者挨拶		
			松本 吉郎 (日本医師会 会長)		
			来賓挨拶		
			松本 吉郎 (日本学校保健会 会長)		
開始	終了	講演時間	演題	講師	座長
10:10	11:10	1:00	学校保健施策の動向	堤 俊太郎 文部科学省 初等中等教育局 健康教育・食育課 学校保健対策専門官	加藤 智栄 日本医師会 学校保健委員会 委員長/山口県医師会会長
			脊柱側弯に関する機器を用いた健康診断に関するアンケート調査	渡辺 弘司 日本医師会 常任理事	
11:10	11:15		休憩 (5分)		
11:15	11:45	0:30	機器による側弯症検診のメリット・デメリット	新井 貞男 日本臨床整形外科学会 顧問	
11:45	12:30	0:45	昼 休 憩 (45分)		
12:30	13:50	1:20	シンポジウム(北から南から) ・北海道における眼科・耳鼻咽喉科学校健診の現状 ・沖縄県における耳鼻咽喉科学校健診の現状・大きな問題点・今後 ～会場とのディスカッション～	笹本 洋一 日本医師会 常任理事 / 北海道眼科医会 会長 坂東 伸幸 北斗病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 副院長 真栄城 徳秀 真栄城耳鼻咽喉科	
13:50	13:55		休 憩 (5分)		
13:55	14:55	1:00	講演1 体とこころの学校健診～学校医が子どもを救う～	土生川 千珠 国立病院機構南和歌山医療センター 小児アレルギー科・小児科医長	加藤 智栄 日本医師会 学校保健委員会 委員長/山口県医師会会長
14:55	15:00		休 憩 (5分)		
15:00	16:00	1:00	講演2 発達障害の児童生徒と心の健康～学校生活につまずきやすい子どもの健康をどう守るか～	小林 潤一郎 明治学院大学 心理学部教育発達学科 教授	
16:00			閉会	渡辺 弘司 (日本医師会 常任理事)	